

「私はこれほど勇敢に行動できるだろうか？」米老兵が露パイロットを称える

シリア上空で撃墜された露将官の勇気を称え、遺族に援助を申し出る

【訳者注】これは、ニュースとしての価値はあまりないが、この小さなエピソードが我々に感動を与えるのは、なぜだろうか？ 我々は、こういう話題に飢えていたのではないだろうか？ ここに、国民と国家が完全に一つになった、ロシアという国があった。一人の空軍軍人が飛行機を不法に撃墜され、脱出して、なおも最後まで戦って死んだ。彼には家族もあったが、命を捧げるべき国家があり、捕虜になるより、祖国のために死ぬことを選んだ。そして国家と国民は、彼を英雄として、最高の礼をもって祖国に迎え入れた。そしてこれは、立场上は敵国であるアメリカの元軍人を感動させ、彼は遺族への献金を申し出た。

明治時代の日本人のように、**純粹に**、命を捧げるべき祖国をもっていると言えるのは、今、ロシア人ではないだろうか？ 感動した元米兵ソーラ氏には、そういう国家へのあこがれがあったであろう。なぜなら、あの日本との戦争でさえ、今から思えば、純粋な国家の戦争ではなかった。日本への憎しみは煽られ、つくり出されたものであり、背後政府に騙されて駆り出されたものだった。その後の、アメリカの戦争はすべて、**本質的に**、傭兵による汚い、卑劣な戦争で、国家の危機など存在しなかった。ソーラ氏の感動は、その事実を知っている、おそらくすべての地球人の感動ではなかうか？

RT (Russia Today) www.rt.com

February 8, 2018



ロシア空軍少佐 Roman Filipov の遺影——ロシア、ヴォロネジで行われた記念すべき葬儀風景

フィリポフ少佐は、2月3日、シリアのイディブ地区で、彼の飛行機が、敵戦闘員によって撃ち落された後に死んだ。彼は、航空機から脱出した後、敵と交戦したが、やがてテロリストたちが彼の居場所を取り囲んだとき、手りゅう弾を爆発させた。

「私はフィリポフ少佐の物語を、多大な興味と悲しみをもって読みました」と、かつて米空挺部隊のメンバーだった Steve Sola は、Eメールを RT に書き送った。「私は、ロシア空軍が、彼の未亡人と遺児に対する、十分な手当をされるものと確信しますが、もう少し、そこに添えていただくことはできないでしょうか？」

ソーラは、残された家族に対する遺族年金に、上乘せ献金することを申し出た。そして RT とのインタビューでは、このパイロットの勇敢さを、熱烈に称賛した。

「彼がこんなふうに死ななければならなかったとは、私は心臓が張り裂ける思いでした」と、ソーラは言った。「私は、彼のやったことをやるだけの勇気が、自分にあったかどうか、自信が持てません。

「彼は、逃げられない状態で、どうしなければならぬか、わかっていました。そして彼は、捕虜になる気はまったくありませんでした。

「これは、おそろしく難しい決断です。しかし私は彼に、軍人として敬礼を捧げます」と、ソーラは、涙をこらえながら、声を震わせて言った。彼は、やらねばならないことをやりまし。他の部隊にどういうことが起こりうるか、彼の戦友に何が起こったかを、彼は知っていました。」

関連資料：「数千人が、シリアで撃墜されたロシアの英雄、Su-25 パイロットに、最後の敬意を払う」 <https://www.rt.com/news/418261-major-filipov-funeral-voronezh/>

RT はロシア陸軍に対し、フィリポフ少佐の遺族のために、特別の基金を設けることが可能か、問い合わせており、返答を待っている。

<https://youtu.be/DQz8L2rbLQU>

(**ビデオ** 「ロシア：シリアで戦死した英雄パイロットの遺骸が、故郷の町に着く…」)

ロシアの防衛長官セルゲイ・ショイグは、他の軍高官らとともに、モスクワ郊外のチカロフスキー空港で、このパイロットに対する、彼らの最後の敬意を表明した。フィリポフ少佐の

遺骸は、次いで、彼の故郷の町ヴォロネジに搬送され、約3万の人々が彼の鎮魂式に出席した。

彼は、軍人の礼式によって、木曜日、埋葬された。2,000人に近い人々が、墓地にまでやってきて、この英雄パイロットの墓に花を捧げるため、長い列を作った。3発の礼砲が発せられ、フィリポフに最後のお別れが告げられた。彼には、死後授与の形で、ロシア最高の栄誉、「ロシアの英雄」メダルが贈られた。